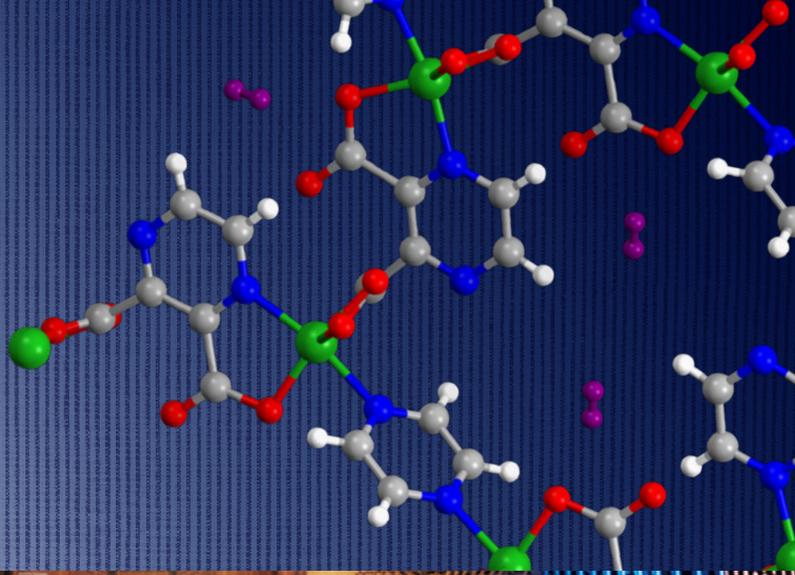


紅

京都大学広報誌
くれないもゆる

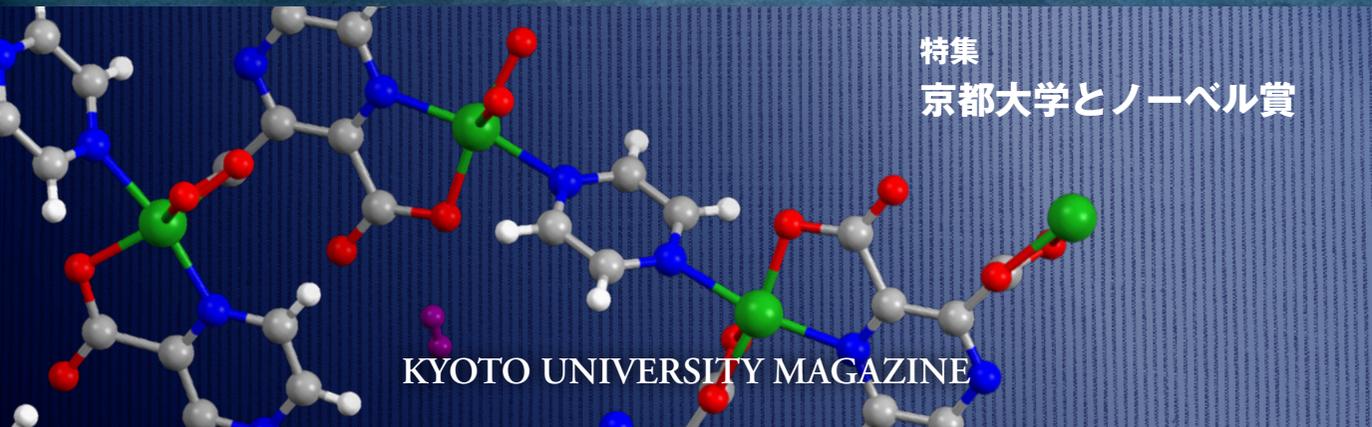
萌

2026
第
49
号



© Nobel Prize Outreach. Photo: Clément Morin

特集
京都大学とノーベル賞



KYOTO UNIVERSITY MAGAZINE

京都大学とノーベル賞

2025年に北川進 理事・副学長、特別教授がノーベル化学賞を、坂口志文 名誉教授（大阪大学特別荣誉教授）がノーベル生理学・医学賞を受賞し、京都大学卒業生・教員のノーベル賞受賞者数は13名。日本人が2名同時に受賞するのは、10年ぶりです。

京都大学にゆかりのあるノーベル賞受賞者

- 北川進 2025年 化学賞 1
- 坂口志文 2025年 生理学・医学賞
- 吉野彰 2019年 化学賞
- 本庶佑 2018年 生理学・医学賞 2
- 赤崎勇 2014年 物理学賞
- 山中伸弥 2012年 生理学・医学賞 3
- 小林誠 2008年 物理学賞
- 益川敏英
- 野依良治 2001年 化学賞
- 利根川進 1987年 生理学・医学賞
- 福井謙一 1981年 化学賞 4
- 朝永振一郎 1965年 物理学賞
- 湯川秀樹 1949年 物理学賞 5



© Nobel Prize Outreach. Photo: Nanaka Adachi



© Nobel Prize Outreach. Photo: Alexander Mahmoud



© The Nobel Foundation. Photo: U. Morita



京都大学 大学文書館 所蔵



提供／京都大学福井謙一記念研究センター

紅萌 第49号 目次

- 02 特集 京都大学とノーベル賞
- 12 授業に潜入! おもしろ学問 戦争の口実か、あるいは平和の礎か 捉えがたい「正義」と対峙する 齋藤嘉臣

- 16 萌芽のきらめき・結実のとき 負の烙印に抗う人々の人生をとらえて迫る インドネシア社会の姿 山田千佳
- 18 施設探訪 京大生活協同組合 食堂
- 20 京都大学基金事務局より／京都大学同窓会だより

表紙の解説●北川進理事・副学長、特別教授が2025年のノーベル化学賞を受賞。2025年12月10日にスウェーデン・ストックホルムにて開かれた授賞式で、スウェーデン王国カール16世グスタフ国王からメダルとディプロマが授与された。

高校生や大学生へのメッセージ

知的好奇心を携えて、〈おもしろい〉ことを追い求めてほしい。すでに世にあるものではなく、ゼロからクリエイトするという事です。キーワードは「無用之用」。今は役に立つと思われていなくとも、違う視点で見ると、「無用」と思われていたものが大きな意味を持つこともあります。あきらめずに果敢に挑戦を続けてください。

京都大学大学院時代(左、提供: iCeMS)

共に創り上げた「空間」の化学

ノーベル賞授賞式を終えて

北川進

理事・副学長、特別教授



© Nobel Prize Outreach. Photo: Clement Morin

きたがわ・すすむ

京都大学大学院工学研究科修士課程石油化学専攻修了。同大学院博士課程石油化学専攻単位取得退学(工学博士)。近畿大学助手、東京都立大学教授、京都大学教授などを経て、2017年から京都大学特別教授、2024年から京都大学理事・副学長。

ノーベル賞授賞式の荘厳な雰囲気の中でメダルを受け取った瞬間、私の胸に込み上げたのは、私たちが長年をかけて築き上げてきた研究の分野が、ついに世界に認められたという確かな実感でした。

この歩みは、私ひとりのものではありません。発想を現実へと導いてくれた研究仲間、実験と議論を重ね続けた学生たち、そして挑戦を支えてくれた京都大学の自由の学風があってこそ、私たちの研究はここまで育ち、世界に認められる成果となったのです。

私が追いつけてきたのは、一見すると〈何の役に立つのか分からない〉孔。材料の中に空間をつくる。しかもそれが柔軟に変化する。そんな奇妙に見える発想の根底には、古代中国の思想家・荘子が説いた「無用之用」の思想がありました。役に立たないように見えるものこそ、本質的な価値が宿っている。私はその言葉を信じ、ナノレベルで空間を設計する「多孔性金属錯体(MOF)」、特に〈やわらかく動く孔〉を持つSoft Porous Crystal (SPC)の開拓

に力を注いできました。今では、さまざまな分野に応用されています。持続可能な未来社会を支える材料として機能する、大きな可能性を秘めています。

科学とは、まだ誰も気づいていない自然の奥深さに光を当て、それをより深く、広く理解しようとする営みです。そしてときに、そこから誰も見たことのない新しい世界を創り出す力を持つものです。

京都大学には、そのような探究に欠かせない「自由」と「寛容」の文化があります。〈おもしろい〉と感じたテーマを突き詰めることを許し、見守ってくれる学風こそが、研究人生を支えてくれました。若い研究者の皆さんには、ぜひ「すぐに役に立ちそうなこと」ばかりでなく、「まだ意味があるかも分からないこと」にも関心を持ち続けてほしいと思います。

学問の自由が息づくこの場で、〈まだ何になるかわからない問い〉に挑むこと。そうした探究と挑戦の積み重ねが、次の科学を育てる土壌になると信じています。



北川 進 理事・副学長、特別教授 受賞発表から ノーベルウィークまでの主な動き

10/8

18時45分頃、ノーベル化学賞の受賞発表

20時から記者会見(1)。記者会見後、新聞社、通信社およびテレビ局による個別の取材・テレビへの生出演。



10/9

高等研究院の職員から花束の贈呈(2)および記者会見

石破 茂 内閣総理大臣(当時)とオンラインで面会(3)

お祝いを受けるとともに、若手人材の育成や研究環境の改善などを要望。



10/30

松本洋平 文部科学大臣への表敬訪問(4)

研究環境の整備や基礎研究への支援拡充、若手研究者を支援する仕組みなどについて意見交換。

小野田紀美 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)への表敬訪問(5)

研究環境の整備、基礎研究に対する継続的な予算確保および若手研究者への支援などについて意見交換。



11/3-4

文化勲章親授式、文化功労者顕彰式に出席

錯体化学の研究における多大な功績により、文化勲章を受章および文化功労者に選定。

11/10

坂口志文 名誉教授と記者懇談会を実施(6)

両名の学生時代や、研究を始めたきっかけ、次世代の研究者に向けた期待などについて対談。



北川 進 理事・副学長、特別教授ノーベル賞受賞記念 ご支援のお願い

本学では、北川 進 理事・副学長、特別教授のノーベル化学賞受賞決定を記念し、北川特別教授が所属する高等研究院 物質—細胞統合システム拠点(iCeMS=アイセムス)への寄付を募集しています。北川特別教授のように、常識にとらわれず「おもしろい」と感じたことを信じて探求し、日々研究に励むアイセムスの研究者たちの活動への支援をお願いいたします。



北川 進 理事・副学長、特別教授の ノーベルウィークの 舞台裏に密着



2025年
12月3日
WED

出発前の記者会見(大阪国際空港)

「スウェーデンの人々のサイエンスに対する熱量をこの1週間、肌で感じたい。人生においてとても名誉な、二度とない貴重な機会。大きな期待感を胸に、現地を存分に楽しみたい」と語り、スウェーデン・ストックホルムに出発しました。1



北川先生は歩くのが大好き! 歩きながら頭の中を整理されているそうです。普段も朝は遠回りして、1時間半ほど歩いてから出勤されることも。ノーベルウィーク中はほとんどノーベルカーでの移動。「帰国したらまずは歩きたい」と仰っていました。

5日
FRI

スウェーデンラジオの収録
授賞式に向けて燕尾服の
フィッティング(4)

フィッティング後には、歴代受賞者がメッセージを書き残しているノートに「無用之用 The Usefulness of the Useless」と記しました。その後、地元のスーパーで、日本ではあまり目にしない種類のハーブやスパイスを購入しました。5



このノートを通して、「歴代受賞者たちの想いに、時を超えて触られた」と感激されていました。海外を訪れた際には、ハーブやスパイスをお土産に買って帰られるそうです。



4日
THU

ストックホルム・
アーランダ空港に到着

早朝に到着。空港からはノーベルカー(ノーベル財団が用意した専用車)2)で宿泊先のホテルに向かいました。その後、ヴァーサ号博物館の見学に徒歩で向かいました(3)。ヴァーサ号は、世界で最も保存状態のよい17世紀の船といわれています。巨大な船体や大砲の迫力に圧倒されつつも、その歴史に思いを馳せていました。



6日 SAT



5日 FRI



ストックホルム 日本人補習学校訪問

約100名の児童生徒に「興味があることに突き進んでほしい」というメッセージを届けました(6)。講演後は児童生徒が花道を作ってお見送り。ハイタッチしながら学校を後にしました。

受賞者懇談会(ノーベル博物館)

懇談会終了後は、博物館併設のカフェの椅子にサイン(7)。「多孔性金属錯体(MOF)研究が進化した鍵となる関連材料4種類」と「サイン入りのMOFハンカチ」を寄贈しました。



予定時間を延長して児童生徒からの質問に答える北川先生。「嫌いなものがあるのもいい。好きなこと、おもしろいことを突き詰めていくことが大事」、「失敗はガッカリすることじゃない。失敗とは、新しいことを進めるために新しく分かったこと」という言葉が印象的でした。

7日 SUN

記者会見(スウェーデン王立科学アカデミー)

「基礎研究の社会実装には25年ほどかかる」と述べ、基礎研究への長期的な資金援助の必要性を訴えました。



「ここが山場」と、時間をかけて準備を進めてこられたノーベルレクチャー。無事にレクチャーを終えた北川先生の顔には安堵の表情が浮かんでいました。受賞発表時の記者会見で「気体はますます期待されます」とダジャレを織り交ぜておられた北川先生。レクチャーでもそのユーモラスな一面が印象的でした。

ノーベル化学賞記念講演 ノーベルレクチャー (ストックホルム大学アウラ・マグナ)

「固体や液体から(気体の時代)に入ろうとしている」と述べ、座右の銘「無用之用」を紹介しました。講演の最後には共同研究者や学生などの関係者に感謝の言葉を述べました(8)。

8日 MON



© Nobel Prize Outreach, Photo: Nanaka Adachi



ノーベル賞コンサート (ストックホルム・コンサートホール)

演奏を聴き「ファンタスティック!」と感激されていました(9)。

© Nobel Prize Outreach, Photo: Niklas Elmehed

9日 TUE

「ノーベルマインズ(Nobel Minds)」の収録

生理学・医学、物理学、化学、経済学の各ノーベル賞受賞者が座談するイギリスBBC放送とスウェーデンSVT放送の共同制作番組です。分野を超えた活発な議論が交わされました(10)。



© Nobel Prize Outreach, Photo: Clément Morin

在スウェーデン日本国大使館主催のレセプションに坂口名誉教授と出席

用意された椅子に「無用之用 The Usefulness of the Useless」とサインし(11)、参加者と懇談しました。



10日 WED

ノーベル賞授賞式

スウェーデン王国カール16世グスタフ国王からメダルとディプロマの授与のあと、会場の参加者に向かって深く頭を下げ、感謝の気持ちを表されました。授賞式後は市庁舎に会場を移しての晩餐会。ディナーに舌鼓を打ちながら、参加者との歓談を楽しみました。

© Nobel Prize Outreach, Photo: Clément Morin



授賞式直前の北川先生に声をかけると「メダルを落とさないかも心配やけど、晩餐会が始まったら約4時間、トイレに立てないことが一番心配だ」と一言。笑いながら出発されました。

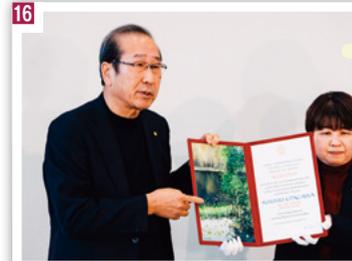
14日 SUN

ノーベルウィークすべての予定を終え、早朝、ストックホルム・アーランダ空港から帰国の途に着きました。

15日 MON

大阪国際空港に到着し、記者会見

「とても密度の高い、多忙な1週間を過ごしました」、「国王陛下からじかにディプロマとメダルをいただき、確かにノーベル賞をもらったんだなと実感が湧いた」と笑顔で語り、メダルとディプロマを披露しました(16 17)。さらに、「MOFという材料があることが広く知れ渡った。そこから出てくるアイデア・コメントを受けて、研究を深めていきたい」と今後の展望を述べました。



ノーベルウィークを通じて、研究を楽しむ姿勢や研究者への支援を繰り返し訴える姿など、研究者のあり方を目の当たりにしました。北川先生、長旅本当にお疲れさまでした!



11日 THU

在スウェーデン日本国大使館主催の記者会見

坂口名誉教授(大阪大学特別栄誉教授)とともに出席し、授賞式から一夜明けた心境を述べました。北川理事・副学長、特別教授は「今、日本で研究する人が将来ノーベル賞を受けるとしたら20年以上先のこと。そのためには気の長い支援が必要だ。私たちが賞をとって、わいわい騒いで終わりではいけない」と、基礎科学への理解や国からの支援の必要性を訴えました。



提供: 大阪大学

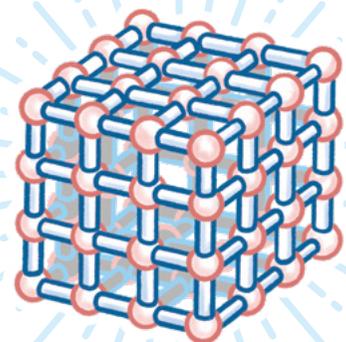


MOFが切り拓く 気体の時代

地球規模の課題解決の鍵を握るのは、ナノサイズの極小空間?! 目に見えない「孔(あな)」がもたらす新たな可能性を紹介します。



MOFの
量産化・産業化
の立役者
案内役
樋口雅一
特定拠点准教授



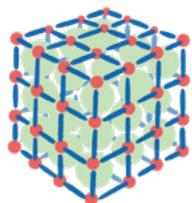
新時代の多孔性材料 MOF

微細な孔が規則正しく無数に空いた材料「MOF(多孔性金属錯体)」。北川理事・副学長、特別教授は、金属イオンと有機分子の配位結合で形成する結晶構造の中に規則的に空いた「孔(あな)」にいち早く着目。そうして、1997年、このナノレベルの微細な孔にメタンや酸素のような分子の取り込みが可能なることを世界で初めて立証した。

MOFの 空間が 生む機能

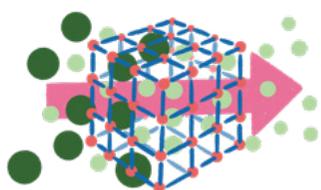
1 貯蔵

孔の中に、水素、メタン、二酸化炭素などの分子を安全に、たくさん吸着できる。



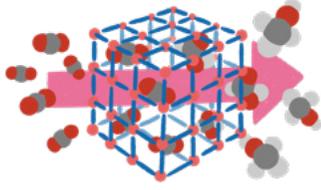
2 分離

複数の分子を含む混合物から、目的の分子のみを孔に吸着させて分離できる。



3 変換

ある分子を吸着させて、異なる分子に化学的に変換。CO₂をMOFに吸着させ、メタノールなどに変換することも可能。



MOFのここがスゴイ!

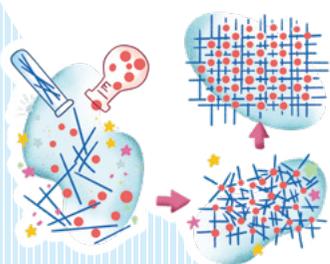
表面積が大きい

表面積が大きいので、大量の分子の吸着や反応を効率よく起こせる。あるMOF(1gあたり)の孔の表面積は、サッカー場1面の広さに匹敵。



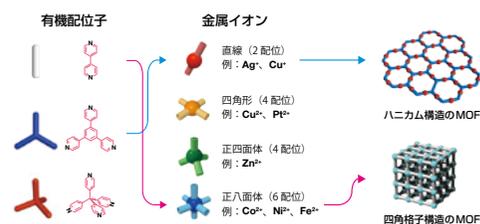
簡単につくれる

有機配位子を含んだ溶液と、金属イオンを含んだ溶液を混ぜるだけで合成できる。



デザインできる

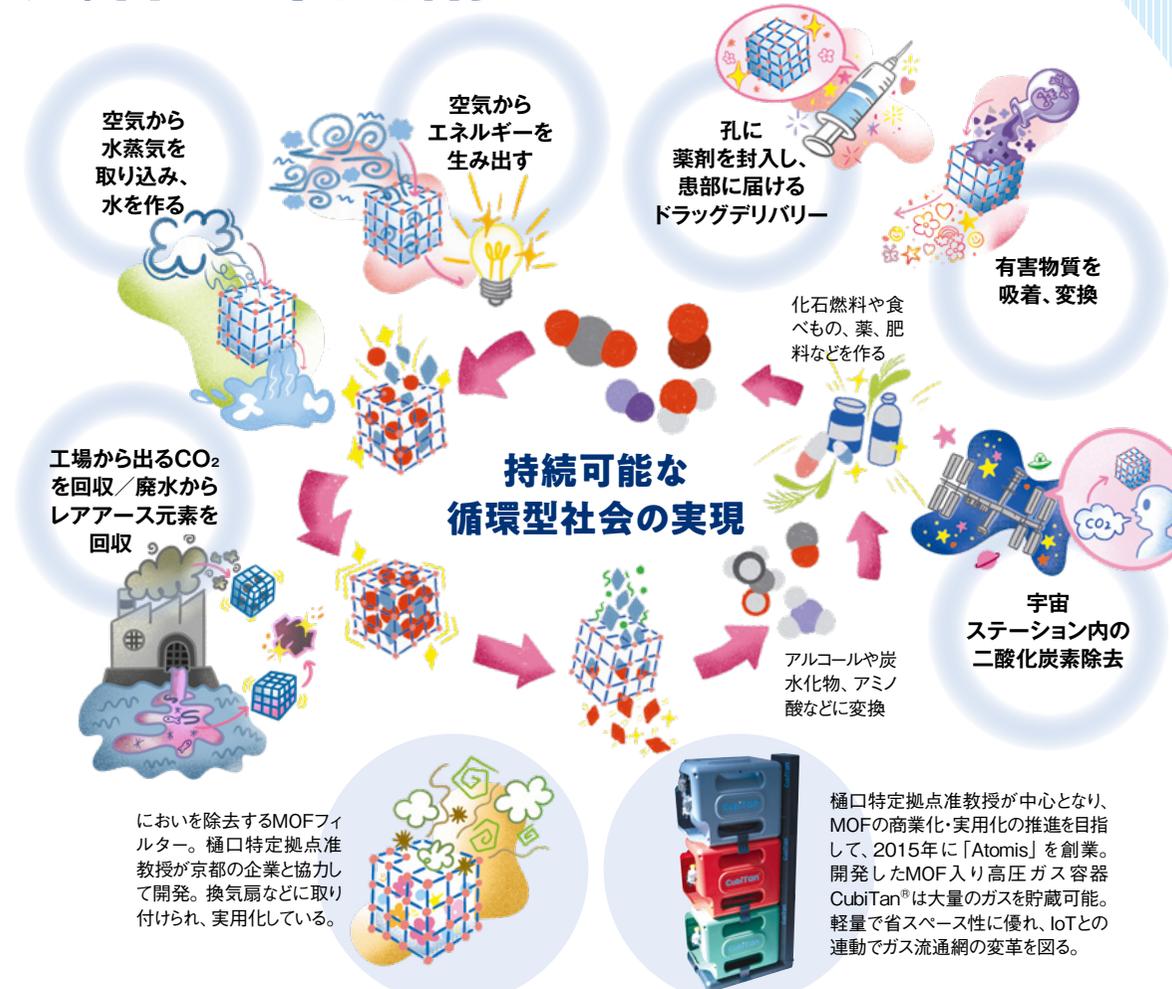
構造は自由にデザイン可能。よく知られる「ジャングルジム」構造以外にもさまざまな構造のMOFを作れる。材料となる金属イオンは約30種、有機配位子は無数に存在するので、組み合わせ次第で、合成できる数は無限と考えられる。



金属イオンは種類によって接続できる方向が異なる。2方向、4方向のものなどさまざま。これらの金属が有機配位子の両端に結合し、さまざまな構造を作ることができる。

無数の空間が実現する、 気体の錬金術

地上のどこにでも存在する(気体)。気体に含まれるN₂、O₂、CO₂、H₂Oは、窒素や酸素、炭素、水素の元素から構成される。私たちの体を作るタンパク質や身の回りの有機物も、元を辿ればこれらの元素。ならば、空気を利用すれば、あらゆるものを作ることができるはず。



大局を見つめ、MOFのような「包容力」を携えた気さくな恩師



樋口雅一
高等研究院
物質-細胞統合システム拠点
特定拠点准教授

北川先生といえば、気さくでどんな相手にも気を配る人。出会った頃感じたその印象は、20年が経った今でも変わりません。近くの研究室に所属していた学生時代から北川研のBBQに何度か参加していましたが、最後には毎回、北川先生自らが焼きそばを振る舞われるんです。共同研究担当の研究室メンバーにと誘われたときに頭に浮かんだのは、笑顔でコテを振るう親しみやすいその姿。研究内容以上に「この人なら」と直感しました。

それにとでもおおらかで、懐が深い。学生が希望する研究内容について、「それはあかん」と止めるのを聞いたことがありません。たとえ北川研の方向性からすると一見異なるように思える研究テーマが出てきても、北川先生はそれすら包み込むさらに大きなビジョンを柔軟に打ち出し、メンバー全員

が仲間であることを強く意識させる。だから若手も安心して思い切り挑戦できるんです。

それは優しさであると同時に、高い視座から大局的に物事を捉えていることの表れ。弟子には自由に研究を委ねながらも、それらを包摂する上位概念を生み出し、自身が提唱する「空間の化学」を世界が認める学問領域へと拡張してこられました。BBQで見たあの気さくさや研究で示された包容力こそが、世界を巻き込んでいったリーダーシップの本質なのだと思います。



MOF国際学会の休憩中にカフェへ



坂口志文
京都大学 名誉教授
大阪大学 特別名誉教授

32歳でアメリカに渡り、制御性T細胞の研究を始めた当時は、免疫反応を抑える細胞の存在に多くの研究者は懐疑的でした。逆風に負けずに研究を進められたのは、持ち前の楽天性があったから。「運鈍根」という言葉がありますが、重要さからすると「鈍根運」。周囲の声に振り回されず、納得して前に進むことが重要です。粘り強く続けていけば、運はあとからついてきます。

それに、正常なマウスの胸腺を除去すると自己免疫疾患に似た症状が現れるという確固たる現象が目の前にはあった。行き詰まっても、その現象に立ち戻れば何度でも

さかくち・しもん
京都大学大学院医学研究科博士課程修了。ジョンズ・ホプキンス大学客員研究員など、アメリカで12年間を過ごし、1995年に帰国。その後、京都大学再生医科学研究所(現・医生物学研究所)所長、大阪大学免疫学フロンティア研究センター教授などを経て、2025年から現職。

納得して一歩ずつ前に進む。 向かい風を突き抜けて掴んだ大きな成果

再出発できました。主流の考え方と自分のアイデアとをつねに比較し、「私たちの研究も悪くない」と一歩ずつ前に進むうち、その先に新しい景色が見えてきた。気がつけば、臨床応用への展開にまで辿り着くことができました。

焦らず、独自の視点を育てる

免疫学との出会いは、京大医学部の学生時代。自己免疫疾患では、体を守るはずの免疫が逆に体を攻撃したり、過剰に反応してアレルギーを引き起こしたりするのを知り、「なぜそんなことが起こるのか」と、「免疫」という現象のメカニズムに惹かれたのが出発点です。

大切なのは、興味をもったことには、まずは一歩踏み出す姿勢。それと、成果がでるには時間がかかることを前提にじっくりと構えてほしいと思います。そうすることで、芽生えた興味は他人とは違う視点へと成長します。

この世界の現象のうち、サイエンスの理解が及んでいるのはほんの一部。新しい発見を目指すなら、現象を固定的に捉えず、さまざまな視点から眺めることが重要です。京大は主体的に学び、独創的なアイデアに価値を置く場所で、私もその風土に影響を受けました。焦らず、独自のものの見方を育ててください。

2025年

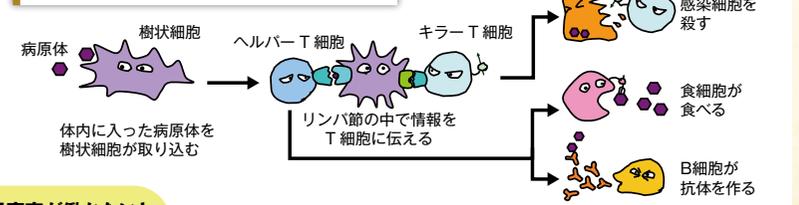
ノーベル生理学・医学賞「末梢性免疫寛容に関する発見」

制御性T細胞(Tレグ)の発見が免疫学の重要な発見かという……

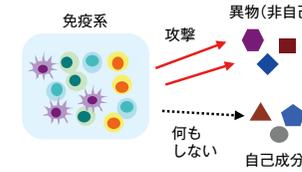


制御性T細胞は、
最大の難問
「自己寛容」の仕組みを
解明する重要なピース

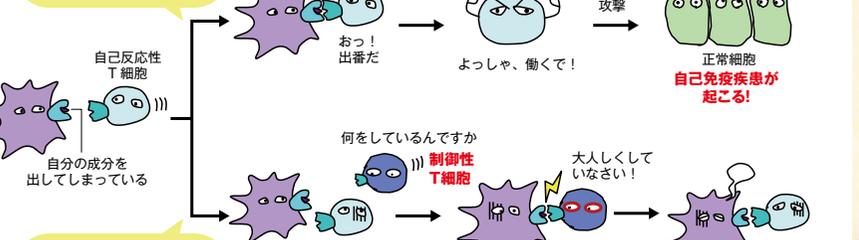
そもそも免疫の仕組みとは……



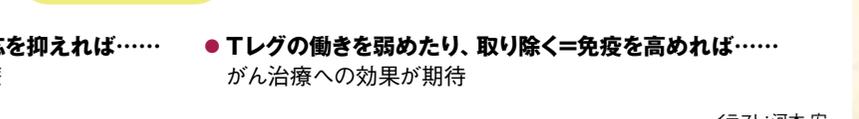
獲得免疫の重要なピース「自己寛容」



自己寛容が働かないとどうなる?



制御性T細胞があるとどうなる?



Tレグが拓く医療の未来

- Tレグの働きを強める=免疫反応を抑えれば……
自己免疫疾患やアレルギーの治療
臓器移植時の拒絶反応を抑制
- Tレグの働きを弱めたり、取り除く=免疫を高めれば……
がん治療への効果が期待

イラスト:河本 宏

坂口先生とは
25年来の
関係です

案内役 メタ龍
河本 宏 医生物学研究所 教授

プロファイリング
さながら!

数十年、追い求めた制御性T細胞

ノーベル賞学者を2人輩出! 京大再生研の先見の明

河本 ●坂口先生が再生研に着任した当時、Tレグの存在に世間はまだまだ懐疑的でした。しかし、再生研の教授は「これは本物だ」。世間の潮流とは違う視点を恐れない、京大の校風だからこそ、Tレグ研究は発展したのかも知れません。1998年に胸部疾患研究所と生体医療工学センターが統合され、再生研が発足。次々とすごい教授が着任され、当時の活気には、私も刺激を受けました。

1999年 京都大学再生医科学研究所 (現・医生物学研究所)に着任し、 さらなる研究を展開。

制御性T細胞の存在を
世界で初めて
証明しました



1985年 胸腺を除去したマウスに さまざまなT細胞を移植

CD5分子を強く発現する細胞と自己免疫疾患の発症に関連あり。この細胞に免疫を抑制する機能があると確信

しかし、CD5分子はT細胞の約80%で発現

もっと特異的な分子に絞り込まなければ!

1995年 CD25分子の発現が より信頼できる目印であることを発見

この分子が発現する細胞が「**制御性T細胞(Tレグ)**」

1977年
マウスの胸腺を取り除くと自己免疫疾患を発症する現象と出会う。免疫反応の要のT細胞ができる場所を除去したのに、なぜ?

坂口先生
では、攻撃を抑制する細胞も胸腺にいるのではないかと?

手がかりは、T細胞の表面を構成する分子。T細胞の種類ごとに、発現する分子が違うのだ。

まずはCD5分子に注目してみよう!

免疫学の大先輩、そしてともに戦う同志



河本 宏
医生物学研究所 教授

坂口先生との出会いは25年前。当時の印象は、なにを尋ねても誠実に教えてくれる先輩。会話の節々から、免疫学の本質を学びました。

私の専門は、制御性T細胞と同じ獲得免疫系のキラーT細胞。坂口先生とは、T細胞を使う治療法の考え方で意気投合し、T細胞療法の開発を目指す「レグセル」の創業メンバーに加わりました。対象疾患の違いなどから分社化した今も、ともに戦う同志として協力を続けています。

坂口先生がよく口にするのは、「街灯の下で鍵を探す」というアラブのたとえ話。暗闇に鍵を落としたのに、「なにも見えないから」と街灯が照らす場所ばかり探す男の話です。これを引用しながら、「明る

い場所ばかり見ているだけだ。真実は影の中にある」と。学問のトレンドに流されることなく、逆風にも負けずに向き合い続けた先生の姿そのものです。

右のイラストは、そんな話に着想を得て、暗闇の中、自身でランプを灯してTレグを見つける坂口先生の姿を描いたもの。先生と研究をともにされ、自身でも論文を発表されている奥様・教子先生の姿も描きました。

(作画:河本 宏 国際KTCC 2026 HPから転載)



2003年 Tレグの遺伝子 Foxp3を 発見

Tレグを分子レベルで同定できるようにした大発見。多様な実験や検証が可能になり、論文の引用数が爆発的に増加



坂口先生といえば散歩。思索を練りながら、川沿いを小一時間歩くそうです。2016年9月に中国の蘇州で開かれた学会で「早く到着したから散歩しよう」と誘われ、会場の周囲を歩いたときの写真。目的地は決めずに、好奇心の赴くままに歩きながら、とりとめぬ話をしました

戦争の口実か、あるいは平和の礎か 捉えがたい「正義」と対峙する

一般に「正義」といえば、悪を倒し弱者を助ける「善」のイメージで語られることが多い。しかし、国際政治の場においてこれほど危うい言葉はない。かつて戦争は、しばしば指導者が独善的な「正義」を叫ぶことによって引き起こされてきた。果たして、国際社会で「正義」は語りうるのか。語りうるならば、その基準は誰が決めるのか。本講義では、理念と現実を行き来しながら、この正解のない問いを根源から問い直す。



さいとう・よしおみ
1976年、福岡県に生まれる。神戸大学大学院法学研究科博士課程後期課程修了。京都大学大学院人間・環境学研究所准教授などを経て、2024年から現職。2025年から国際高等教育院と兼任。

「戦争に正義はあるのか」。今日扱うのは、一言で答えを出すのは難しく、論争すら呼びそうな問いかけです。

立場が違えば揺れ動く「正義」の定義

かつて国際政治学では、「正義」の議論は敬遠される傾向にありました。なぜなら、あまりに怪しいからです。「正義」には客観的な基準がないゆえに、積極的な議論は進みませんでした。

編集T ▶ 「あまりに怪しい」。「正義」という言葉にどこかポジティブな印象を抱いていたからこそ、言葉が深く突き刺さります。

齋藤先生 ▶ 受講生からも、「正義」は力の強い側の言い分にすぎないのではないかという意見はよく聞かれます。

しかし、現実の世界では、戦争のたびに「正義」が叫ばれます。例えば1991年の湾岸戦争後にイラクのフセイン政権が述べた「正義」。ここには、かつて西洋諸国が引いた国境線の正当性への問いや、「他国の大量破壊兵器保有は許されるのに、なぜイラクだけが悪者とされるのか」という憤りが込められています。

2003年のイラク戦争時には、アメ

リカのブッシュ大統領が自国軍を鼓舞する演説のなかで「正義」を用いました。テロを根絶して中東に平和の地域を作り出すという「アメリカの掲げる正義」を実践しようと述べたのです。このように、それぞれの立場に都合のよい論理を「正義」の言葉で包み込み、行動を正当化する言説は、歴史上のさまざまな局面で見られます。

編集T ▶ 「正義」は戦争を始める旗印にもなりえるのですね。「正義」という言葉がもつ危うさにも気付かされました。

齋藤先生 ▶ その「正義」の危うさを意識することが、今日の議論の出発点になります。その危うさを意識しながら、議論を進めてゆきましょう。

受講生の所属学部



国際政治に関わるのは、経済や法学の世界だけではありません。紛争時の医療の提供に関心をもつ医学部生や、将来は食糧問題に関わりたい農学部生など、理系学部の受講者も多いです。

「違法」だが「正当」? 国境を越える介入の論理

一つ目の視点は、「どんな条件が整えば武力行使は正しいといえるのか」という問いです。国際法ではこれを*Jus ad bellum*といいます。ラテン語で「戦争の前の正義」を意味します(1)。

現在、国際法では戦争は原則として違法とされています。第一次世界大戦での大きな犠牲を転機に、武力行使を違法とする考え方が生まれました。国際連合が例外的に武力行使を認めるのは、「自衛権の行使」と「集団安全保障」に基づく場合に限りです。



アメリカのミサイル駆逐艦から発射されるトマホーク巡航ミサイル。1999年3月31日撮影(アメリカ合衆国防総省 撮影、パブリック・ドメイン)

1 武力行使が合法化される要件

国連憲章下で武力行使が合法とされるためのルール



2 武力行使の正当化要件

- (1) 正当な理由 大規模な人命の喪失や「民族浄化」が現実に行き起きているかその恐れがあること。
- (2) 正当な意図 人間の苦痛を止めたり未然に防ぐためであること。
- (3) 最終手段 あらゆる外交的・非軍事的手段が成功しないという合理的な根拠が存在すること。
- (4) 比例的な手段 軍事行動の規模、期間、強度は人道的目的を達成するための必要最小限であること。
- (5) 合理的な期待 介入に踏み切ることによって事態が悪くなる可能性がある場合には、介入は正当化されない。
- (6) 正当な権限 軍事介入の実行に先立って安全保障理事会の承認を求めること。

参考資料: The Responsibility to Protect, ICISS



かつては、その曖昧さから議論の俎上にあがりづらかった「正義」。しかし、戦争をめぐる現実に向かい合うとき、「正義」を無視できない状況が生まれます。その一つが1999年のコソボ紛争に際する「人道的介入」です(左写真)。セルビアでアルバニア系住民への虐殺が疑われるなか、NATOは国連の承認を得ずにセルビア側を空爆しました。コソボはNATO加盟国ではなく、自衛権の行使にも当たらないため、攻撃は国連憲章に照らして違法と評価されました。でも、「虐殺を止めるには正当な手段だったのではないかと」という問いが浮かびあがったのです。

編集T ▶ 「虐殺を止めるためなら、法を破ることも正当か」。簡単には答えを出せそうにない問いです。もし自分が決断を下す立場なら、どちらを選ぶだろう。とても重い問いですね。
齋藤先生 ▶ 今回紹介する視点は、それを考える足がかりになるはず。

国際法には、国家の主権を尊重し、他国は内政に干渉しないという原則があります。でも、ある国で起こる人道危機を傍観してよいのだろうか。このジレンマに整合性をもたす考え方が、「保護する責任」です。国家主権を「他国

に干渉されない権利」ではなく、「自国民を保護する責任」であると捉え直し、国家にその責任を果たす意思や能力がない場合、国際社会が代わりにその責任を負うべきだとしたのです。つまり、大規模な人道危機があれば、主権国家の壁を越えてでも介入できる条件を整えた理論枠組みと言えます。

もちろん、これが乱用されると大国による勝手な介入を許してしまいます。だからこそ、人道的介入には厳格な条件が定められています(2)。この条件のもと、2011年に国連安保理の決議に基づいて行われたNATO主導のリビア空爆は、「保護する責任」が実

際に適用された初めての例とされています。

人道のためのルールが、殺戮を正当化するパラドクス

二つ目の視点は「戦争の中の正義」、Jus in belloです。戦争そのものの善し悪しの議論は別として、「戦うなら守るべきルールがある」という考え方です。これは武力紛争法や国際人道法と呼ばれ、二つの側面から発展してきました。

一つは、国家主導で整備されてきたハーグ法です。「敵の軍事力を弱める」という目的を超えて不要な苦痛を与える兵器や、戦い方の規制に重点が置かれています。

しかし、現実には課題は尽きません。攻撃は、武器庫や基地などの軍事目標に限定すべきとされていますが、病院や学校など、民間人のいる場所に「テロリスト」が潜んでいるとされたらどうでしょう。近年のガザ地区での戦闘や、アフガニスタンでのドローン攻撃はまさにこうした難題を突きつけています。軍事力を弱められるならば、「付随的損害」として民間人の被害は仕方がないと解釈される危険が常につきまっています。

編集T▶「付随的損害」という言葉の、空恐ろしいほどの軽さが際立ちます。本来守られるべき命が、「やむを得ない被害」として処理されてしまう。その無機質な暴力に背筋が寒くなります。
齋藤先生▶ AIを使用した自律型ロボットが攻撃を行った場合の責任は誰が負うのか、という問題も生まれています。開発した企業なのか、ロボットの使用を決定した人物なのか。責任の所在が曖昧なまま、技術だけが進んでいる現実があります。

もう一つの側面は、赤十字国際委員会などの市民社会の側から生まれたジュネーブ法です。ハーグ法だけでは必要な犠牲が出かねないなかで、傷病兵や

捕虜、民間人などの戦闘外に置かれた人々を保護することに重点を置いています。

この二つの法体系が現在の国際人道法(武力紛争法)の柱です。とはいえ、人道的な被害を軽視した武力行使は、今なお世界各地で見られます。ルールの確立と実効性の担保が大きな課題です。

貫く「正義」、遠のく「平和」

三つ目は、「戦争後にどう正義を回復するか」という問題で、Jus post bellum、「戦争の後の正義」と呼ばれます。「正義の回復」とは、戦争で損なわれた秩序や権利をできる限り元の状態に戻そうとする考え方です。

重要なのは、戦争中に生じた戦争犯罪の処理をどうするか。処罰を優先することで真相の究明が困難になり、かえって「正義の回復」を妨げることもあります。

1994年のルワンダ虐殺では、わずか3か月で80万人以上の犠牲者が出ました。加担した容疑者は数十万人に及び、全員を裁くのは非現実的です。そこで開かれたのが、伝統的な草の根裁判「ガチャチャ」でした。首謀者は厳しく裁く一方で、末端の加担者には家屋建設などの労働奉仕を課し、社会の中で罪を償わせました。

ほかにも、南アフリカのアパルトヘイト撤廃後に開かれた「真実和解委員会」では、過去の罪を告白することなどを条件に刑罰を免除しました。厳格な処罰よりも真相の究明を優先したのです。

それでも難しさは残ります。処罰され



ガチャチャの裁判
(撮影: Scott Chacon [https://www.flickr.com/photos/chacon/206683075], CC BY 2.0)



ることを恐れて指導者が休戦に応じなかったり、欧米主導の「正義」や国際法を押し付けることへの警戒や疑念もあがっています。

編集T▶「正義」を追い求めるほど、別の課題が生まれているのですね。
齋藤先生▶内戦後の国家再建に失敗して、紛争が再発する事例もあります。

戦争の論理から平和の知恵へ

最後に知ってほしいのは、戦争における「正義」の議論は、戦争を正当化するためになされているのではないということです。「正義」を掲げた戦争が起こり、かえって秩序が乱れた事例は多い。だからこそ国際社会が考えるべきは、どうすれば武力行使に歯止めをかけられるのか、どのような厳しい条件を満たしたときにだけ、その正当化が可能なのか。「正義」という言葉は曖昧で、危ういものです。けれども、戦争のためではなく、平和を築くために「正義」を問いつけることは、決して無意味ではありません。

編集T▶「正義は怪しい」。講義の最初に放たれた言葉ですが、授業を終えて、この言葉の後にこうつなげられました。「けれども(正義)とは、暴走する力に歯止めをかけ、平和を手繰り寄せるための、人類の必死の知恵でもある」。
齋藤先生▶だからこそ、「正義」を疑いながら、それでも手放さずに考え続けることが大切なのです。

もっと知りたい! 国際政治

日常に潜む国際政治の力学を読み解こう

ジャズのリズムやバレエの舞台の裏に、国家の戦略が潜んでいるとしたら。冷戦期の「文化外交」は、政治の意図が日常に浸透した好例です。「文化外交」に潜む戦略的な意図と社会の側の自由な解釈。その「ずれ」を読み解く視座は、情報やイメージが外交の武器となる現代を生きる私たちにとって不可欠なものです。



ジャズの調べは「自由」のしるべ?

国際政治論というと、戦争や秘密交渉など非日常の世界を扱う学問だと思われがちです。しかし実際には、国際政治の影響は私たちの身の回りの世界にも及んでいます。冷戦期の音楽外交は、日常に浸透する国際政治のあり方をよく示しています。

冷戦期は東西両陣営が体制の魅力を競いあう時代でした。国際世論を惹きつけることが重視されるなか、アメリカが目じたのが自由な即興演奏を重視するジャズでした。ジャズは「自由で民主的な社会」の象徴として位置づけられ、デューク・エリントンやデイヴ・ブルーベックなど、著名な音楽家が世界中で公演を行いました。ジャズは単なる音楽を超え、建国の理念を伝える広報外交の手段になったのです。

もっとも、音楽家たちが国家の意図をそのまま体

現していた訳ではなく、国内の人種差別にも苦しんだように、ジャズ外交はアメリカの理想と現実のずれを浮き彫りにしました。聴衆も純粋に音楽を楽しんだに過ぎません。

外交の意図と社会の受け止め方の間の

ずれを読み解くのも、国際政治論の課題です。SNSが発達した今日、発信される情報がどう意味づけられ、受け取られているのかを批判的に考える視点は、いっそう不可欠になっています。



齋藤嘉臣 著『ジャズ・アンバサダー—「アメリカ」の音楽外交史』(講談社、2017年)

バレエの舞台は国境をも飛び越えて

アメリカがジャズを通じて世界中の人々の心をつかもうとしたのに対して、ソ連は帝政ロシア以来の伝統を持つバレエに自国の優位性を見出しました。

バレエはロシア革命後、革命の理念を分かりやすく人々に伝える芸術として重視され、同時にソ連文化の水準の高さを象徴する存在として国外に積極的に発信されました。

ポリシヨイ・バレエの英国公演(1956年)を皮切りに、キーロフ・バレエ(現マリインスキー・バレエ)

も日本や欧米公演を重ね、物語性の強い(ロミオとジュリエット)や帝政時代の古典作品(白鳥の湖)などが上演されました。ジャズと同様、ソ連バレエも「国家の顔」としての役割を担ったのです。ただ、批評家からは革命を想起させる躍動的なジャンプや統制の取れた群舞は高く評価されましたが、表現の保守性や実験性の乏しさを指摘する声もありました。欧米のモダン・バレエとの価値観の違いがあったためです。

ソ連の舞踊家が公演先で亡命することや、西側社会の豊かさに魅了されることを当局が警戒したように、当事者の行動様式も一様ではありませんでした。バレエ外交の事例も、舞台芸術を通じて日常空間に入り込む国際政治の力学を可視化する好例と言えます。



負の烙印に抗う人々の 人生をとおして迫る インドネシア社会の姿

山田千佳 東南アジア地域研究研究所 准教授

やまだ・ちか
神戸大学大学院保健学研究科博士課程修了。
京都大学東南アジア地域研究研究所助教などを経て、2025年から現職。



使用当事者の支援活動に取り組むヤナ氏(左)、ハニバ氏(中央)と北ジャカルタの海岸にて。右端が山田准教授

「ドラッグを使用する人たちによる社会運動」。そう聞くと、思わず耳を疑うが、それは山田千佳准教授も同じだった。大学院で東南アジア地域におけるメンタルヘルス調査に取り組み、依存症からの回復支援施設で実務経験も積むなか、インドネシアでハーム・リダクション運動に出会った。「ドラッグを使わない生き方が〈よい〉という前提があり、その前提への疑問は口ににくい環境にいたので、元使用者ではなく、現使用者が堂々と活動している

ことに驚きました。『いったいどういう運動なんだ?』という戸惑いが研究の出発点です」。

自らの尊厳のため、 声をあげた当事者たち

ハーム・リダクションとは、「害を減らす」こと。感染症予防のために清潔な注射器を配布したり、副作用や依存性の低い代替薬物を提供したりすることで、ドラッグが健康や社会に与える害の低減をめざす。政策や国際的な保健事業に採用され

る一方で、使用当事者による社会運動として、より安全に使用するための場所の確保や情報発信などの草の根の活動が広がっている。

「なぜ禁止しないのか?」と疑念を抱くが、その背景はとても複雑だ。いま「インドネシア」と呼ばれる地域では、今日「ドラッグ」とされるものが日常生活のなかで用いられ、その使用自体は必ずしも社会問題と見なされていなかった時代があった。「ところが1960年代以降の世界的な厳罰化の流れのなかで、インド

日本では、ドラッグといえば「ダメ。ゼツタイ」。使用者の心身を害するだけでなく、社会に悪影響を与えることから、重大な犯罪として一切許容しない厳格な政策が採用されている。他方で、同じくドラッグの有害性への対処として、禁止よりも害を抑えることに主眼を置いた「ハーム・リダクション」を基盤とする政策や当事者による社会運動が世界的に広まりつつある。インドネシアにおける運動に熱い視線を注ぐのが、山田千佳准教授。いったいどういう運動なのか。どんな人々が運動を担っているのか。当事者が発する「生の声」に耳を傾け、その背景に迫る。

ネシアでも冷戦期の1970年代に麻薬法が整備されていきます」。

ハーム・リダクションが広まったのは、1990年代終盤。HIV感染拡大への対処や民主化の進行に伴い、刑務所やリハビリ施設に強制的に送られることに「おかしくないか?」と訴える当事者の運動が展開した。「犯罪者」というラベルを貼られてしまった人たちが連帯して声をあげるのは、とても勇気があること。自らの尊厳を取り戻そうとする重要な社会運動として広がりを見せました」。

運動の背景にある人生に 耳を傾ける

「話を聞くのがなよりの勉強」と山田准教授。メタル音楽やバイク・ツーリングの愛好者、信仰心に篤い

人など、さまざまな背景をもつ当事者にインタビューを重ねる。ときには自宅にお邪魔して泊まり込みで話を聞くことも。「当事者がどう生きてきたかを知りたくて、『高校時代はなにをしていた?』『好きなバンドは?』と、関係のない話もたくさんします。周縁に追いやられた人々をとおしてこそ、見える社会の姿があります」。

調査協力者の一人、エド・ワラドさんは、自作の楽曲や詩、雑誌編集をとおして、ドラッグ使用者の感情や経験を発信している。そんなエドさんの祖父は、権威主義体制時代に共産主義に共鳴する芸術活動を理由に島流しになった芸術家。一方で、両親は国家公務員として政権の恩恵を受けるエリート層の一員だった。「エドさんは身近な家族を



クラブシーンを支えるエド氏(右)の職場を訪問

通して、人々を振り回す権力への反感を感じていたようです。当事者の人生に耳を傾けながら、運動とインドネシアの歴史とがどう重なるかに着目しています」。

主張だけでなく、 (人)を伝えたい

調査はさぞたいへんかと思いきや、記録された写真に写る柔らかな表情からは、調査協力者との人間的な交流のひとつが垣間見える。「現場での出会いと対話になよりの意義を感じている。『この人はなんでこんな活動をしているんやろ?』という好奇心が原動力です」。ドラッグ使用者のなかでも、女性のための運動に取り組む活動家にきっかけを尋ねた際、「漫画『はいからさんが通る』を読んだよ」と、思いがけない日本とのつながりにも出会った。

現在は、聞き取りの記録や写真、現地で配布されているパンフレット類のデジタルアーカイブ化にも挑戦中。「草の根の実践はなかなかかたに残らない。『こんな人たちがいるんだよ』ということ、その背景も含めて発信したい」。身一つで動けるよう、荷物はいつも最小限。泊まり込みに備えた歯ブラシと、資料をデジタル化するための小型スキャナーを相棒に、山田准教授はこれからも市井の人々のもとへと足を運ぶ。



90年代に音楽好きが集まってヘロインを使ったという薬局の跡地を訪問

京都大学生協同組合 食堂

吉田・宇治・桂の三つのキャンパスで計8店舗の食堂を運営する京都大学生協同組合(京大生協)。安くて、おいしくて、栄養バランス抜群の食事は、一人暮らしで不摂生しがちな学生や、なにかと物入りで節約に励む学生たちの頼れる味方。彩り豊かで種類豊富なメニューを提供する、食堂の工夫をのぞいてみよう。

京大の生協食堂 ここがいい！

1 朝食から夕食まで対応。いつでも立ち寄れる営業時間

中央食堂は朝8時から15時15分、カフェテリアルネは11時から21時15分まで営業。授業前や部活動後の時間でも、生協の食事が食べられる安心感。

2 飽きずに通える週替わりメニュー

1年を通して、週替わりでさまざまなフェアを実施。とくに学生たちに好評のフェアは毎年恒例の「九州・沖縄フェア」。

3 ひと目でバッチリ栄養管理！自立した食生活をサポート

メニューカードに栄養バランスやアレルギー物質を表示。ミールシステム(19ページ右上)に申し込むと、注文したメニューの総カロリーや、タンパク質、カルシウムなどの栄養量をグラフで確認できる。自分に足りない栄養素がひと目でわかる。

西部構内 1日の終わりの疲れた体を出迎える、頼れる食堂

3 カフェテリアルネ
営業時間▶11:00~21:15
平日は21時15分、土曜日は19時まで営業。サークル活動後の遅い時間でも安心して利用できる。パフェやハラル対応メニューなど、ルネだけのメニューも。

ハラル対応メニューは、京都ハラル評議会のお墨付き。ケバブプレートは8種類のソースから味付けを選べる充実の一品。ベジタリアンに対応したメニューや、ヴィーガンの認定基準を満たしたメニューも用意。



京大を
食べつくそう

クスノキを上空から
見ると……



塩だれ炒めと野菜、白飯の朝食プレート



本部構内
**385円の朝食で、
元気な1日の始まり**

1 中央食堂
営業時間▶8:00~15:15
朝8時から10時までは朝食営業し、385円で朝食プレートを提供中。主食は2品から選べる。健康への第一歩として、朝ごはんを食べる習慣を身につけよう。

クスノキを眺めながら、
穏やかなランチタイムを

**2 カフェレストラン
「カンフォーラ」**
営業時間▶11:30~14:00

西部
構内

店名は、京大のシンボルであるクスノキの学名にちなむ。名物(総長カレー)が食べられる。正門に近い便利さから、一般の来校者の利用が多い。

*京都大学の関係者以外の方は11:30~13:00を避けてご利用ください。

吉田南
構内

吉田南構内 **出会いと会話が行き交う場所**

4 吉田食堂 営業時間▶11:00~14:00
全学共通科目の多くが開講する吉田南構内。1回生で満席になったランチタイムの光景は、春の風物詩。混雑を見越して、座席数は学内最大の653席。例年、4~5月はカレーやカツ丼、唐揚げの注文がとにかく多い。担当者曰く、「学食に慣れる前の1回生がまずは見知ったメニューを頼むのかも?」。



京大生の胃袋を支えて77年

今と昔、比べてみると…



京大生協の始まりは、1949年に遡る

北部構内 **できたて熱々を頬べる喜び**

5 北部食堂 営業時間▶11:00~20:00
注文を受けてその場で調理するオーダーコーナーが名物。できたて熱々を楽しむ。



天津飯は人気のオーダーメニューのひとつ

人気フェアの
いちおしメニュー
九州・沖縄フェア



ボリューム満点の塩だれカツ

ボリュームにも大満足の九州・沖縄フェアは毎年大人気のフェアのひとつ。ミミガーや沖縄産もずくなど、「これがまさか学食で?」と驚くメニューも。

食事の「定期券」ミールシステム

1年分の食費を事前に支払うことで、毎日、1日の利用可能額まで生協食堂を利用できる。自宅から自炊といっても、インスタント食品に頼ったり、1品で済ませたり、栄養バランスが偏ってしまうのは学生あるある。毎日・毎食バランスよく食べてほしいという願いからミールシステムが生まれた。

サークル活動など、なにかと物入りな大学生。節約しようと真先に削られるのは「食費」。食費を事前に1年分確保するシステムなので、手持ちがなくても食事可能。忙しいとき、急な出費があったときも、バランスを崩さず食事できる。利用金額が購入金額に届かなかった場合は、差額を次年度に繰り越せるのもうれしいポイント。

利用履歴をスマートフォンで確認できる機能も。日々の栄養グラフも閲覧でき、一人暮らしの子どもが心配な保護者の方からも好評だという。

2025年
人気NO.1はこのメニュー

チキン南蛮



チキンが2枚とボリュームは満点。甘酢で味付けされた鶏肉と、タルタルソースの酸味が食欲をそそる。白ご飯との相性抜群!

あと1品が嬉しい!
小鉢メニューのトップ3

オクラ巣ごもり玉子

オクラと卵が同時に楽しめる一品。健康志向の学生に人気。



さっぱり揚げ出し茄子

揚げ茄子にのせられた爽やかな大根おろしがベストマッチ。



ほうれん草ごまナムル

彩りの鮮やかさは栄養の証。野菜がしっかりと摂れる一品。



『紅萌』ウェブサイトも公開中

下記のアドレス、またはQRコードからアクセスできます。

www.kyoto-u.ac.jp/kurenai/



編集後記

北川進先生がノーベル化学賞を、坂口志文先生がノーベル生理学・医学賞を受賞されました。北川先生、坂口先生、このたびのご受賞、誠にありがとうございます。

京大関係者のダブル受賞ということで大きく紙面を割いてご紹介しています。授賞式のあったストックホルムに同行した職員のコメントもお楽しみいただければ幸いです。

また、今号では、昨今の社会情勢も踏まえて、「戦争に正義はあるか?」やドラッグに関する社会運動といった緊張感のある内容も盛り込んでいます。

今後も本学のホットな話題をお届けしていきます。ぜひご期待ください。

2026年3月

京都大学広報委員会
広報誌企画専門部会

京都大学基金事務局より

遺贈寄付相談センターにて相談を受付

近年、遺言を残すことで自身の財産を大学などに寄付ができる遺贈寄付に注目が集まっています。京都大学へのお問い合わせも増加していることを受け、本学では「遺贈寄付相談センター」を2024年4月に設置し、ファイナンシャルプランナーの専任スタッフがご相談に対応しています。2025年度は100件を超える相談が寄せられており、これらのニーズに対応すべく、京都大学グループ法人である京都アカデミア法律事務所と業務提携を結びました。京都大学へ遺贈を検討されている場合、ご希望により同事務所の弁護士をご紹介します（弁護士への相談料は初回のみ無料）。

遺贈寄付に関する相談窓口 (遺贈寄付相談センター)

TEL : 075-753-5425

月曜～金曜 9:00～12:00、13:00～17:00

※祝日、6月18日(創立記念日)、
12月29日～1月3日を除く

遺贈に関わる TOPICS

- 日本の相続資産規模は年々拡大しており、2035年には50兆円^(※1)を超える見込み。
- 相続財産の国庫納付額も年々拡大し、2024年度に約1,292億円^(※2)を記録。

相続・遺贈についての詳細は京都大学基金ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/>

※1 株式会社日本総合研究所、2024年3月25日、「多死社会で増加する相続をめぐる課題」



相続におけるポイント^(※2)

相続人がいない場合、遺産は国庫に納められます。
ご自身の財産を希望する先に残すためには、
遺言書の作成が必要です。



京都大学同窓会だより

第20回京都大学ホームカミングデイ2025の開催

第20回ホームカミングデイ2025を11月1日(土)に開催しました。当日は秋晴れの空の下、同窓生や教職員、学生、一般の方までのべ5,874名が来場し、20回の節目にふさわしい盛会となりました。

百周年時計台記念館ではアーベル賞受賞記念対談を実施しました。湊長博 総長、石毛和弘 日本数学会理事長のあいさつに続き、2025年に日本人として初めてアーベル賞を受賞した柏原正樹 数理解析研究所特任教授と、サイエンスライターの吉成真由美氏が登壇しました。柏原特任教授の半世紀に及ぶ研究人生が語られ、会場は大きな関心に包まれました。

20周年記念企画として、卒業・修了生と現役学生を対象にした特別交流会や、17か国の留学生が参加した留学生交流企画を初開催しました。そのほか、京都大学交響楽団、グリークラブ、京大合唱団同窓会による音楽会や、研究者と直接対話できる「京大アカデミックデイ」、資産活用セミナー、京都大学機械研究会のロボット実演や展示など、多様な企画を行いました。屋外では、附属農場・牧場や卒業生ゆかりの企業が出店する「くすのき逸品マルシェ」や総合博物館などの特別公



柏原正樹氏の記念対談

くすのき逸品マルシェ

開、スタンプラリーを楽しむ人で賑わいました。

次回のホームカミングデイは2026年11月7日(土)に開催予定です。

新たに入会された同窓会

2025年9月「京都大学千葉学部」/2025年10月「マレーシア京都百万遍会」、「京都大学同窓会吉田楠葉会」/2025年12月「地理学談話会」、「京都大学同窓会ミドル会」/2026年1月「スイス友会」

京都大学同窓生向けサービスKUON

在学生と卒業生、教職員の方を対象に、同窓生向けサービス「KUON」を運用しています。ご登録いただいた皆様限定の優待特典をお届けするほか、ご希望の方は京都大学ドメインのメールアドレスを利用できるサービスも用意しています。

<https://www.alumni.kyoto-u.ac.jp/static/>



京都大学広報誌 紅萌 第49号
2026(令和8)年3月25日発行

編集 ● 京都大学広報委員会 広報誌企画専門部会
発行 ● 京都大学広報室
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL 075-753-7531(代表)
URL <https://www.kyoto-u.ac.jp/>
E-mail kohho52@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
制作協力 ● 京都通信社 デザイン ● 中曽根デザイン

©2026 京都大学 (本誌記事の無断転載・放送を禁じます)

アンケートに答えることで「総長カラー」を抽選でプレゼント!



下記の二次元バーコードを読み取り(もしくはURLを入力し)、専用フォームにアクセスしてください。ご協力いただいた方の中から、抽選で10名様に「総長カラー」をプレゼントします。応募の締め切りは2026年8月14日(金)です。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

URL
<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/public/issue/kurenai/enquete>

